

2016年9月14日

横浜美術館コレクション展 2016年度第2期

描かれた横浜

イメージをかさねる

風を聴く—自然の気配をうつす美術

かたちの変容

2016年10月1日(土)～12月14日(水)

横浜美術館コレクション展 2016年度第2期は、4つのセクションで構成します。

「描かれた横浜」は当館の教育プロジェクトチームが手がける展示です。横浜の街には、ここ「みなとみらい21地区」の高層ビル群をはじめ、実に様々な表情があります。各時代の作家たちはそれぞれのまなざしと手法で、横浜の風景を描き出してきました。現在では大きく様変わりした場所もあれば、描かれた当時の名残が顕著な場所もあります。ご自身の記憶や思い出を重ねあわせ、懐かしくご覧になる方々もあるでしょう。会期中には描かれた場所をボランティアが案内するプログラムも行います。

「イメージをかさねる」では、作品に織りこまれた様々な「かさなり」をキーワードに、作品の見方や感じ方を深めていきます。古今東西の名画を基に、その「オリジナル」のイメージを揺るがし、新しい絵画の見方を促す福田美蘭の《風神雷神図》《山水図》など、収蔵後初の展示作品も含まれます。中原浩大の《ConS:KConWS_6p》は、社会的な意味や文脈に左右されることなく、純粋に「かたち」を見ることは可能かと、私たちに問いかけます。

「風を聴く—自然の気配をうつす美術」では、草むらを吹く風をあらわした熊井恭子の立体作品《叢生'99》を展示室の中央に据え、同作と響き合うように、自然をモチーフとした絵画を特集します。

写真展示室の「かたちの変容」では、実験的な技法によって日常の事物を非日常的なイメージへと転換させた20世紀初頭のダダやシュルレアリスムの写真や、自らの身体を様々な姿に変容させるルーカス・サマラスや森村泰昌のセルフポートレートなどを展示します。

展覧会の見どころ

○ボランティアと一緒に作品に描かれた場所を巡る「街歩き」のプログラムも！「描かれた横浜」

新しい空気を取り入れながら、いつの時代も多くの作家を魅了してきた開港の地・横浜。教育プロジェクトチームが手がける初めての展示では、様々な作家の捉えた「横浜」に迫ります。また、歴史や背景を知ることによって作品理解のきっかけを見つける試みとして、ボランティアによる街歩きフィールドワークも実施します。

○珠玉のコレクションより、注目の初展示

1万点を越える作品を所蔵する横浜美術館。今期のコレクション展では、福田美蘭、中原浩大、熊井恭子など、近年収蔵され初展示となる作品を約20点出品いたします。

また、熊井恭子氏を迎えてのアーティストトークも実施。市民のアトリエによるワークショップも併せて開催し、熊井氏を講師に、見ること、創ることの両面から、作品の魅力に迫ります。



國領經郎《飛行船の浮ぶ港の風景》1993年(平成5)
油彩、カンヴァス 162.3×194.0cm 國領經郎氏寄贈



福田美蘭《風神雷神図》2013年(平成25)
アクリル絵具、パネル 181.8×227.2cm 福田美蘭氏寄贈

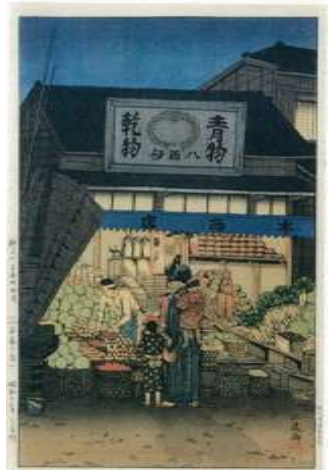
展示構成

1. 描かれた横浜

鑑賞をはじめとする美術館体験が、より豊かで多様なものとなる機会を来館者に提供することを目的に、2012年に立ち上がった横浜美術館教育プロジェクトチーム。本セクションは、教育プロジェクトチームのエデュケーターが、初めて手がけるコレクション展示です。

横浜の地を描いた絵画や写真など約50点を、「新しい街の建設—みなとみらい21地区」「港の風景—海岸通り・山下公園」「丘の上の風景—本牧・山手」「暮れなずむ風景—石渡江逸のまなざし」の4つのテーマで紹介します。

芸術家たちのまなざしによって捉えられた各時代の横浜の風景が、今日ではどのように表情を変え、また名残をとどめているのか、「ボランティアによる美術で街歩き—描かれた横浜をたずねて」のプログラムも実施。描かれた場所を示す地図パネルを見ながら、展示室での「横浜散歩」をお楽しみください。



石渡江逸 《神奈川子安町所見(八百屋の店)》1931年(昭和6)
多色木版 36.5×24.0cm

2. イメージをかさねる

近現代の絵画、立体、映像作品約40点をとり上げ、作品に織りこまれたメッセージやイメージの多重性・多層性について、4つのテーマで考えます。

「顔」では、一枚のリノリウムの板を彫り進めながら刷りを重ねたピカソの《帽子をかぶった婦人》15点を紹介。シリーズとしてイメージを展開させていくことで獲得された造形の力強さを見ていきます。

「風景」では、人物のシルエットが窓のように抜けてその中に遠い山並みと建物が描かれるマグリット《王様の美術館》ほか、風景が、ある形やある歴史的記憶などと重ねられることで、私たちの固定観念に揺さぶりをかける作品を紹介します。

「伝統的な図像」では、収蔵後初めての展示となる福田美蘭《風神雷神図》《山水図》をはじめ、古今東西の名画をイメージの源泉として自己の表現を探求した作品を展示します。

最後のテーマ「円」では、「完全」「永遠」などの象徴性をもった幾何学的形象である「円」をモチーフとした作品を展示。円という形に、人々が様々なイメージを重ね、多様な文化を築きあげてきたことに注目します。黒い円が描かれた6枚の白い大きなキャンバスから成る中原浩大の《ConS:KConWS_6p》も、2014年の収蔵後初めての展示となります。

3. 風を聴く—自然の気配をうつす美術

テキストスタイルアーティストの熊井恭子の立体作品《叢生'99》が展示室の中央で、静かに息づくように光をはらみます。

本作は1999年の当館企画展「世界を編む」で発表され、2013年に収蔵されました。今回は、所蔵作品として初の展示となります。ステンレススチール線を一本一本結ぶように編み、草むらを吹き抜ける風をあらわしたこの作品と響き合わせるように、壁面には近現代の日本画を中心に、自然をモチーフとした作品を展示。

下村観山《小倉山》、松林桂月《葡萄図》、東山魁夷《樹》、伊藤彬《イメージのなかの山水》、李禹煥《風とともに》など、即物的な自然描写を超えて作家たちが捉えた空や大地の息づかい、草木が放つ気配、そして風の声に、ひととき心を傾けてみましょう。



左：
熊井恭子《叢生'99》1999年(平成11)
ステンレススチール線 30.0×300.0×400.0cm
熊井恭子氏寄贈

右：
東山魁夷《樹》1984年(昭和59)
紙本着色 114.0×162.0cm 東山魁夷氏寄贈

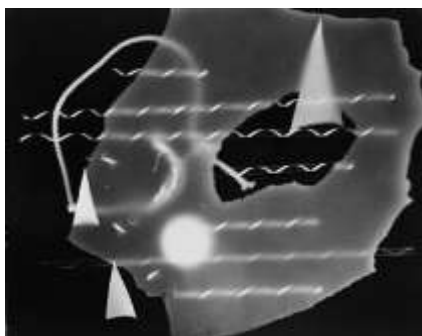
4. かたちの変容

写真展示室では、写真における「かたちの変容」に焦点を当てます。

「フォトグラム、フォトモンタージュ」「ディストーション、ソラリゼーション」では、20世紀の初頭に写真固有の要素を最大限に用いた実験的手法によって、日常の事物を非日常的なイメージへと転換させたダダやシュルレアリスムの作家たちの作品を中心に紹介します。

「変身／変容する身体」では、ルーカス・サマラスや^{もりむらやすまさ}森村泰昌らのセルフポートレートなど、自らの身体を様々な姿形に変容させ、撮る人と被写体の一方的な関係を突き崩すことで自己存在について私たちに強く問いかける作品群を展示します。

展示室の最後の映像コーナーでは、ロシア生まれのアニメーション作家アレクセイエフと後に妻となるパーカーによる《禿山の一夜》を上映。二人の初の映像作品となった本作は、彼らが独自に考案したピンスクリーンと呼ばれる技法で作られています。本作では、ムソルグスキーの同名の交響詩からインスピレーションを得た幻想的な世界を映像化しています。



左：
アンドレ・ケルテス《ディストーション No.40、パリ》1933年
ゼラチン・シルバー・プリント 26.7×34.8cm

右：
ラースロー・モホイ=ナギ《ストローのフォトグラム》1939年
ゼラチン・シルバー・プリント 18.0×22.3cm

関連イベント

○アーティストトーク

講師： 熊井恭子(テキスタイルアーティスト)
日程： 2016年10月16日(日)
時間： 14:00～15:00
会場： コレクション展展示室ホワイエ
申込み： 不要
参加費： 無料(当日有効の観覧券が必要)
座席数： 50席

○ワークショップ「金属(ステンレススチール)を縫う」

講師： 熊井恭子(テキスタイルアーティスト)
日程： [1回目]2016年10月16日(日)
[2回目]2016年10月23日(日)
時間： [1回目]14:00～15:00
アーティストトークへの参加と作品鑑賞
[2回目]14:00～16:30
作家の指導による作品づくり

会場： コレクション展展示室ホワイエ、8階スクールスペース
申込み： 「往復はがき」またはウェブサイトの「申込フォーム」から
対象・定員：12歳以上・16名(事前申込・抽選)
参加費： 2,300円(コレクション展観覧料・材料費込)

○「描かれた横浜」関連レクチャー

講師／テーマ：
① 西川武臣(横浜開港資料館／横浜都市発展記念館 副館長)
「《ペルリ提督横浜上陸の図》を読みとく」
② 青木祐介(横浜都市発展記念館 主任調査研究員)
「関東大震災と横浜風景」
③ 恵良隆二([公財]横浜市芸術文化振興財団 常務理事／
元・三菱地所株式会社)
「みなとみらい21とランドマークタワー建設に携わって」

日程： ①2016年10月22日(土)
②2016年10月29日(土)
③2016年11月5日(土)
時間： いずれも14:00～15:00
会場： コレクション展展示室ホワイエ
申込み： 不要
参加費： 無料(当日有効の観覧券が必要)
座席数： 50席

○ギャラリートーク

さまざまな切口で学芸員やエデュケーターが作品の見どころや楽しみ方を紹介します。

日程： 2016年10月14日、10月28日、
11月11日、11月25日、12月9日
いずれも金曜日

時間： 14:00～14:30

会場： コレクション展展示室

申込み： 不要

参加費： 無料(当日有効の観覧券が必要)

○ボランティアによる「美術で街歩き―描かれた横浜をたずねて」

気候の清々しい11月に、「描かれた横浜」に描かれた場所を実際に巡りながら作品の背景やみどころを紹介します。

案内： 横浜美術館ボランティア(当館職員同行)

日程： 2016年11月22日(火)、11月27日(日)

時間： いずれも13:30～15:00(各日2コース)

申込み： ウェブサイトの「申込フォーム」から
(10月4日[火]申込開始)

定員： 各コース8名程度(事前申込・先着順)

参加費： 無料

*詳細はウェブサイトをご覧ください。

基本情報

横浜美術館コレクション展 2016年度第2期

2016年10月1日(土)～12月14日(水)

会場 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)

TEL:045-221-0300 FAX:045-221-0317

<http://yokohama.art.museum/>

開館時間 10:00～18:00 ※10月28日(金)は10:00～20:30 (入館は閉館の30分前まで)

休館日 木曜日(11月3日[木・祝]無料開館)、11月4日(金)

観覧料 一般 500(400)円

大・高校生 300(240)円

中学生 100 (80)円

※小学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金(要事前予約)

※2016年11月3日(木・祝)は無料

※毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料

※毎月第3月曜日は横浜市在住の65歳以上の方無料(「濱ともカード」をご提示ください)

※企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

プレスリリース
お問合せ

横浜美術館 広報担当 (宮野、藤井、長濱)

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1

Tel. 045-221-0319 Fax. 045-221-0317 Email: pr-yoma@yaf.or.jp